

生成 AI の利用ガイドライン

【教職員版】

《目次》

1. 本ガイドラインの目的	2
2. 対象とする生成 AI	2
3. 基本原則	2
4. 利用ルールと申告義務	2
5. データ入力および生成物利用の制限	3
6. 学生への指導と教育上の配慮	3

《改訂履歴》

2023 年 9 月 1 日	2023 年度版新規作成
2024 年 4 月 1 日	2024 年版改定（暫定版）
2026 年 7 月 15 日	暫定版を改定 教職員版とする

1. 本ガイドラインの目的

本ガイドラインは、本学の教職員が業務および教育・研究活動において、生成 AI を安全かつ効果的に活用するための基準を定めるものです。生成 AI は業務効率化やアイデア創出に寄与する強力なツールですが、情報漏洩や権利侵害のリスクを伴います。

教職員は、生成 AI があくまで人間の判断を補助するツールであることを理解し、その利用に関する責任は利用者個人や組織が全面的に負うことを認識しなければなりません。また、利用が適正であることについて、学内外に対し明確な根拠に基づき説明責任が求められます。

2. 対象とする生成 AI

本ガイドラインは、OpenAI 社の ChatGPT をはじめとした約款型外部サービスを対象とします。

具体的には、以下のようなものがあります。

- ・文章生成 AI : ChatGPT、Claude、Gemini、Microsoft Copilot 等
- ・検索・要約型 AI : NotebookLM、Perplexity 等
- ・画像・文書生成 AI : Adobe Firefly、Gamma、Canva AI 等

技術の進歩や新しい AI の登場に合わせて、これらのリストは適宜更新されます。

3. 基本原則

利用にあたっては、以下の 3 つの原則を遵守し、利用の適正さについて判断根拠を説明できるようにしてください。

- ① 公正性と倫理：生成物に含まれる可能性のある偏見や差別を吟味し、他者の尊厳や本学の理念に反しないか自ら判断すること。
- ② 内容検証の責任：AI は誤った情報（ハルシネーション）を出力することがあります。内容を盲信せず、必ず自らの調査で裏付けを確認すること。
- ③ 法令等遵守：著作権、商標権、意匠権の侵害や情報漏洩が生じないように、適切な手順（コピー検出ツールや検索エンジンでの照合等）で確認すること。

4. 利用ルールと申告義務

- ① 利用にあたっては、各サービスの利用規約を遵守してください。
- ② 業務および教育・研究活動において生成 AI を利用する際は、原則として大学が提供する生成 AI サービスを大学のアカウントで利用してください。これにより、組織としてセキュリティの担保された適切な環境でツールを活用していることを保証できます。
大学が提供するサービス：
 - ・ Google (Gemini、NotebookLM)
 - ・ Microsoft (Copilot Chat)
 - ・ Adobe Firefly 教室 PC でのみ利用可能
- ③ 生成物を対外的に公開・利用する場合や、重要な意思決定に用いる場合は、以下の事項を所属部署の長に報告し、組織として適正さを担保することを推奨します。
 - ・ 利用した生成 AI の名称(大学アカウントか個人アカウントかの別を含む)
 - ・ 入力したデータおよび指示文の内容
 - ・ 正確性や権利侵害の有無を確認するために依拠した文献、Web サイト、または点検ツールの結果

5. データ入力および生成物利用の制限

秘密保持の観点から、入力するデータは以下の分類に従ってください。

① 入力禁止事項

以下の情報は、AI の学習データとして再利用され、第三者へ漏洩・拡散するリスクがあるため、入力を固く禁じます。

個人情報： 学生・教職員の氏名、学籍番号、住所、成績、相談記録、人事記録等。

学内機密： 非公開の研究内容、入試関連情報、セキュリティ情報、秘密保持契約のある外部情報等。

② 学習データ利用の拒否設定（オプトアウト）と利用環境の選択

入力データが AI の学習に再利用され、第三者へ漏洩・拡散するリスクを回避するため、以下のルールを遵守してください。

大学アカウントの優先利用： 原則として、本学が提供する生成 AI サービスを本学のアカウントで利用してください。大学用アカウントは個人用アカウントに比べデータ保護レベルが高く、入力データが AI の学習に再利用されない設定（オプトアウト）が標準で適用されているため、より安全な環境で業務を行うことができます。

個人アカウント利用時の注意： やむを得ず外部の個人アカウントを利用する場合は、必ず各サービスの設定画面等から、入力データが学習に利用されないよう「オプトアウト設定」を行ってください。

③ 不適切な指示（プロンプト）の禁止

差別的な内容、虚偽情報の意図的な作成、特定の作家を想起させるような著作権侵害のリスクが高い指示文の入力は避けてください。

6. 学生への指導と教育上の配慮

教員は、授業の目的に応じて生成 AI の利用方針を学生に明示し、以下の指導を行ってください。

① 利用の透明性： レポート等で利用した場合は、AI 名、利用目的、プロンプトの概要を明記させること。

② 剽窃の防止： AI の生成物をそのまま提出することは学修不正に該当し、評価に不利益を及ぼす可能性があることを周知すること。

③ 情報の裏付け指導： AI が提示した文献の所在を、CiNii、J-Stage、Google Scholar 等の信頼できるデータベースで必ず確認する習慣を付けさせること。

④ 評価のあり方： AI 検出ツールに依存しすぎず、課題設計の工夫や教員の専門的判断を重視すること。